

学校教育目標

自ら輝け 夢をつかめ

<笑顔・感動 はつらつ植水>

学校だより

瑞穂



令和2年度3月号

令和3年3月1日

さいたま市立植水中学校

一年を終えて～大切なものはあとからわかる～

校長 茂木 里仁

先月は、例年になく温かい日が続き、本校では風邪等の流行もなく無事に過ごすことができました。ただ、新型コロナウイルスが心配される状況が続いています。手洗いやマスク等の感染症対策のご協力をお願いします。正門前の花壇には、チューリップが芽吹き始め、ようやく春の訪れを感じるようになってきました。



いよいよ年度の最後の月を迎えました。この1年を振り返ると、緊急事態宣言が発出され4月、5月と臨時休校が続きました。そのような中、家庭訪問や課題を渡すための登校を実施しました。6月から分散登校が始まり、パンやおにぎりや牛乳の給食。中旬から一斉登校が始まりましたが、1学期の行事は全て中止、7月は31日まで続けました。16日間の夏休みを終え、8月17日から2学期。委員会活動や部活動を短時間で実施しました。9月に体育祭を半日で実施、10月にはなんとか新人戦、合唱コンクールを実施できました。しかし、新型コロナウイルス罹患者の増加に伴い、冬季大会の中止。二度目の緊急事態宣言の発出。3年生の受験への心配や配慮、修学旅行の中止。そして、卒業式は、卒業生とその保護者、教職員のみの実施が決定いたしました。長い教員人生でも初めての対応に戸惑い、判断の難しかった一年でした。この令和2年度は生徒の皆さんにとっても、大変さみしい思いをしたことでしょうか。数十年たっても君たちが中学生であった令和2年度という年は語り継がれることでしょうか。その時の自分は何をして何を考えていたか。必ず一緒に思い出されるはずですが、大変なことですが、自分と向き合う機会としてください。決して無駄な時間とはなりません。

さて、皆さんは、サン・テグジュペリという人が書いた「星の王子さま」という本を知っていますか？次の文は、この本の一節です。「ある人」から頂きました。

「砂漠は美しいな・・・」と王子さまがつづいて言いました。まったくその通りでした。僕もいつも砂漠が好きでした。砂山の上に腰をおろす。なんにも見えません。だけれど、なにかが、ひっそりと光っているのです・・・。

「砂漠が美しいのは、どこかに井戸をかくしているからだよ・・・」と、王子さまが言いました。とつぜん、ぼくは、砂がそんなふうに、ふしぎに光るわけがわかって驚きました。

「本当に大切なものは目にみえない」という言葉が出てくる有名なシーンです。私にこの本をくれたのは、小学生の時加入していたサッカーチームの監督です。毎週日曜日に小学校のグラウンドでサッカーを習いました。私はその監督を好きになれず、練習中はいつも不機嫌で反抗的でした。返事もしないくらいひどい態度で教えを受けていました。1年ほどたった頃、監督が「サッカーチームを解散します」と私たちに言いました。病気を抱えていたそうです。そして、私に一冊の本をくれたのです。それがこの本です。本には一枚の葉が入っていて、こう書かれていました。「この本は人生の中で何度でも読み返せる本だと思います。中学生、高校生、成人、三十歳になっても、四十歳になっても、その年代になって考えたり、気付いたりすることがあると思います。君もこれから乗り越えなければならないことは多いと思いますが、頑張ってください」とありました。あれから47年経ち、私は59歳になりました。そして、この本を読んでいきます。本当に幾つになっても新しい発見があります。あの時の監督の言葉が浮かんできます。当時は好きになれなかったサッカーの監督ですが、年を重ねるごとに、思いやりのある優しい人だったんだな、と思います。そして、「大切なもの」が見えていなかった過去の自分がとても恥ずかしくなります。私にとっての「星の王子さま」という本は、若くて、未熟な私に一生懸命に向き合おうとしてくれた若い監督の姿が浮かんでくる、別の物語がある本です。